

腎移植医から ラジオ番組の一節より

コロナ禍と臓器移植

新潟大学医歯学総合病院
泌尿器科 田崎 正行 先生

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2019年12月初旬に、中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となりました。わが国においては、2020年1月15日に最初の感染者が確認され、4度の緊急事態宣言を経て2021年11月現在、感染者数は減少傾向にあります。この1年10か月の間、われわれの生活は一変しました。

末期臓器不全の根治的治療である臓器移植は、臓器提供があって成り立つ医療です。臓器を提供したいというドナーとその御家族の尊い意思により、これまで多くの臓器不全の患者様が救われております。しかし、コロナ禍となり救急の現場はコロナ患者の対応に追われ、臓器提供数もかなり減少しました。また、コロナ禍により通常診療の制限が設けられ、予定された移植を延期しなければならない状況もありました。通常、臓器提供を希望されるドナーがいる場合、われわれは県外であっても臓器の評価や摘出に向かいますが、コロナ禍により県外への移動は制限され、臓器摘出ならびに臓器移植をあきらめざるを得ない場合もありました。

われわれは、臓器提供を希望されるドナーならびにその御家族の尊い意思に応える義務があり、臓器不全患者を救う使命があります。それらを不可能にするほどコロナウイルスは恐ろしい存在です。しかし、このようなコロナ禍においても各医療学会をはじめ、それぞれの医療施設は移植医療を止めることのないように体制を整備し、少しずつではありますが臓器提供、臓器移植がコロナ禍以前のように行えるような兆しが見えております。

令和3年度 臓器移植対策推進功労者に本県から2名選定！

移植医療対策の推進に顕著な功績のあった方に贈呈される厚生労働大臣感謝状の対象として、本県から山崎肇先生（長岡赤十字病院副院長）と当財団理事の山口征吾先生（新潟県地域医療推進機構魚沼基幹病院地域救命救急センター長）が選定されました。両先生、おめでとうございます！

山崎肇先生
(写真左側)山口征吾先生
(写真右側)長岡赤十字病院 副院長
新潟県院内コーディネーター 山崎 肇 先生

この度の感謝状を頂戴しましたこと、誠に光栄に存じております。私自身は2001年から長岡赤十字病院の院内コーディネーターとして活動してまいりました。当院の提供体制は、長年にわたって積み上げられ、改修され、再構築されてきたものであり、当然ながらそこには多くの方々の努力と汗が詰まっています。今回の表彰はそれを代表する形で評価いただいたものと受け止めております。ありがとうございました。この場を借りまして関係諸氏に改めて感謝申し上げますとともに、当初からずっとご指導いただいている新潟県臓器移植推進財団の秋山政人氏に謝意を表したいと存じます。

新潟県地域医療推進機構魚沼基幹病院
地域救命救急センター長、新潟県臓器移植推進財団 理事 山口 征吾 先生

この度、厚生労働大臣より臓器移植について、感謝状を頂きました。当院はまだ開院して6年半という病院で、医療圏も17万人という小規模な地域救命救急センター併設の地域基幹病院です。現在までに、脳死下臓器提供9例、心停止下臓器提供1例という症例の多さから、表彰していただいたと思います。これは私個人ではなく、病院職員やコーディネーターの皆さま、そして何よりも臓器提供をしていただいたご本人、ご遺族のお陰です。この場を借りて、お礼を申し上げます。